



業況DIは、悪化。先行きは好材料に乏しく、慎重な判断

ポイント

- ▶ 7月の全産業合計の業況DIは、▲25.2と、前月から▲3.9ポイントの悪化。エコカー補助金等の経済対策による下支え効果が弱まっているうえ、超円高や電力不足等を背景に取引先の海外移転・調達が加速していることや、海外経済の減速に伴う輸出減から受注低迷が続く。また、天候不順等により夏物商品が不調だったことに加え、大手専門店（ドラッグストア・ホームセンター等）やコンビニ等が客層を多様化していることなどから競争が激化し、地域流通業の業況は一段と厳しさを増している
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲24.8（今月比+0.4ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見通し。欧州の財政金融不安を背景に再び円高が進んでいることに加え、電力料金の値上げによるコスト増や、エコカー補助金終了による内需の反動減等、先行きへの不安は払しょくできず、好材料に乏しいことから、依然として慎重な見方が続いている

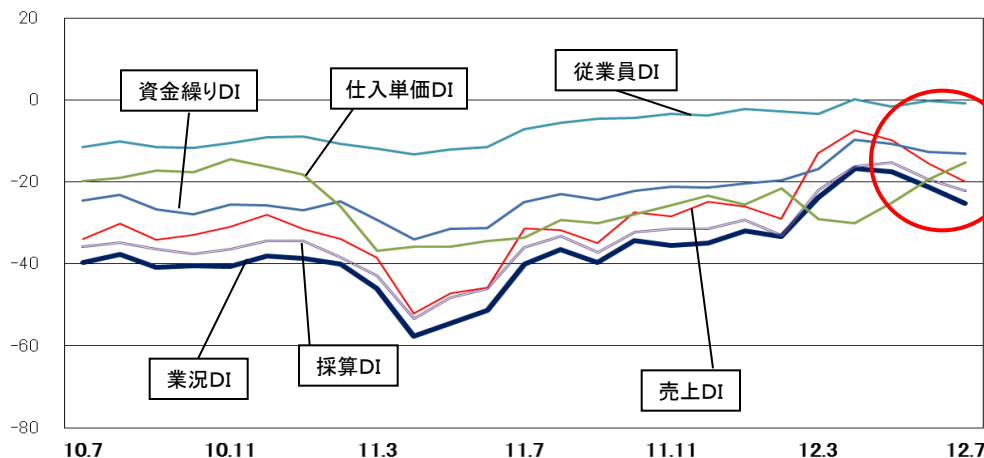
仕入価格の状況について（1四半期前との比較）

- ▶ 仕入価格が「上昇している」企業（全産業）は10.3%。一時に比べ、上昇に一服感が見られるものの、「高止まりが続いている」企業（全産業）も48.3%とほぼ半数
- ▶ 「低下している」企業（全産業）は41.4%に上るものの、そのうち89.9%が「低下しているが、依然厳しい水準」にあると回答
- ▶ 業種別にみても、全業種で上昇に一服感が見られる。ガソリンをはじめ燃料価格の低下を歓迎する声が多く聞かれる一方、穀物の高騰を懸念する声が高まりつつある

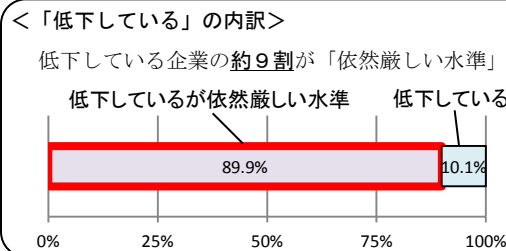
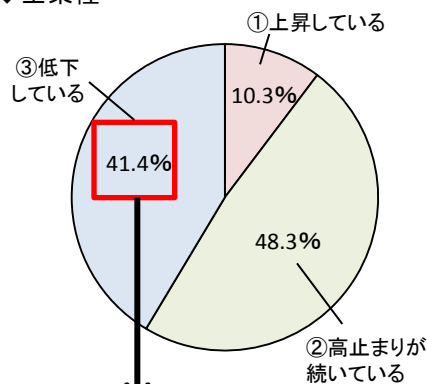
[中小企業の声]

- ▶ 震災被災地の需要により、一部の資材や人件費が高止まりしている（帯広 一般工事業）
- ▶ 世界的な投機の影響により、仕入価格が乱高下している。砂糖は下落、小麦は上昇するなど、安定的な仕入に支障（むさし府中 菓子製造販売業）
- ▶ 米国の熱波の影響により、トウモロコシ、大豆の価格が高騰。その他の食料品への波及を懸念（横浜 食品製造業）
- ▶ パンの原料となる小麦等の粉類の価格は高止まりが続いている（静岡 食品卸売業）
- ▶ 原材料のカツオの仕入価格が高騰。今後も上昇が見込まれる（焼津 水産品製造業）
- ▶ 天然黒鉛、ジルコニウム鉱等の耐火物の原料価格は上昇・高止まりが続いており、収益の圧迫要因（備前 耐火物製造業）
- ▶ 鉄スクラップの仕入値は下落しているが、売価も下落しており、収益増には結びつかない（徳山 その他鉄鋼業）
- ▶ 燃料価格は低下したものの、売上は増えず、経営は厳しい状況（日向 タクシー業）

LOBO全産業合計の各DIの推移(2010年7月以降)



◆全業種



◆業種別

	①	②	③
建設	8.7	55.9	35.4
製造	11.1	48.5	40.4
卸売	10.9	46.7	42.3
小売	10.2	47.5	42.4
サービス	10.4	44.3	45.4

参考：平成24年3月調査
(震災以降の仕入価格について)

